

## 飛鳥資料館春期特別展のご紹介

「キトラ古墳壁画十二支—子・丑・寅—」

平成20年4月18日(金)～6月22日(日)

うち5月 9日(金)～5月25日(日)

キトラ古墳壁画 子・丑・寅 特別公開

今年も春の訪れとともに、飛鳥資料館では、文化庁のご協力のもと、キトラ古墳壁画に関わる特別展を開催いたします。一昨年の白虎、昨年の玄武にひきつづき、今年のテーマは十二支です。

キトラ古墳の十二支像は、平成13年12月の第4次内部調査で確認されました。この十二支像は、頭が動物で、人の体をもつ、いわゆる獣頭人身十二支像です。日本の極彩色壁画古墳である高松塚、キトラ両古墳のうち、キトラ古墳にだけ描かれており、その特徴の1つとなっています。

東アジアの古代世界に目を向けると、獣頭人身十二支像は、中国の隋代に長江中流域で出現し、唐代や韓国の統一新羅時代に盛んにつくられました。その姿や性格には、地域色や年代差を見出すことができ、キトラ古墳壁画のルーツを探る有力な手がかりといえます。

今回は、中国の十二支鏡、道教鎮墓石や十二支俑、韓国慶州の金庾信墓、掛陵、遠願寺石塔など

に彫られた十二支の拓本と写真、奈良の隼人石の拓本や榮山寺の十二神将像(重要文化財)などを展示し、東アジア各地の十二支に迫るとともに、キトラ古墳の十二支像との比較を試みます。獣頭人身十二支像を通じてみえてくるキトラ古墳壁画の真実をお楽しみください。

(飛鳥資料館 西田 紀子)



キトラ古墳壁画 寅